

平成27(2015)年度指定校

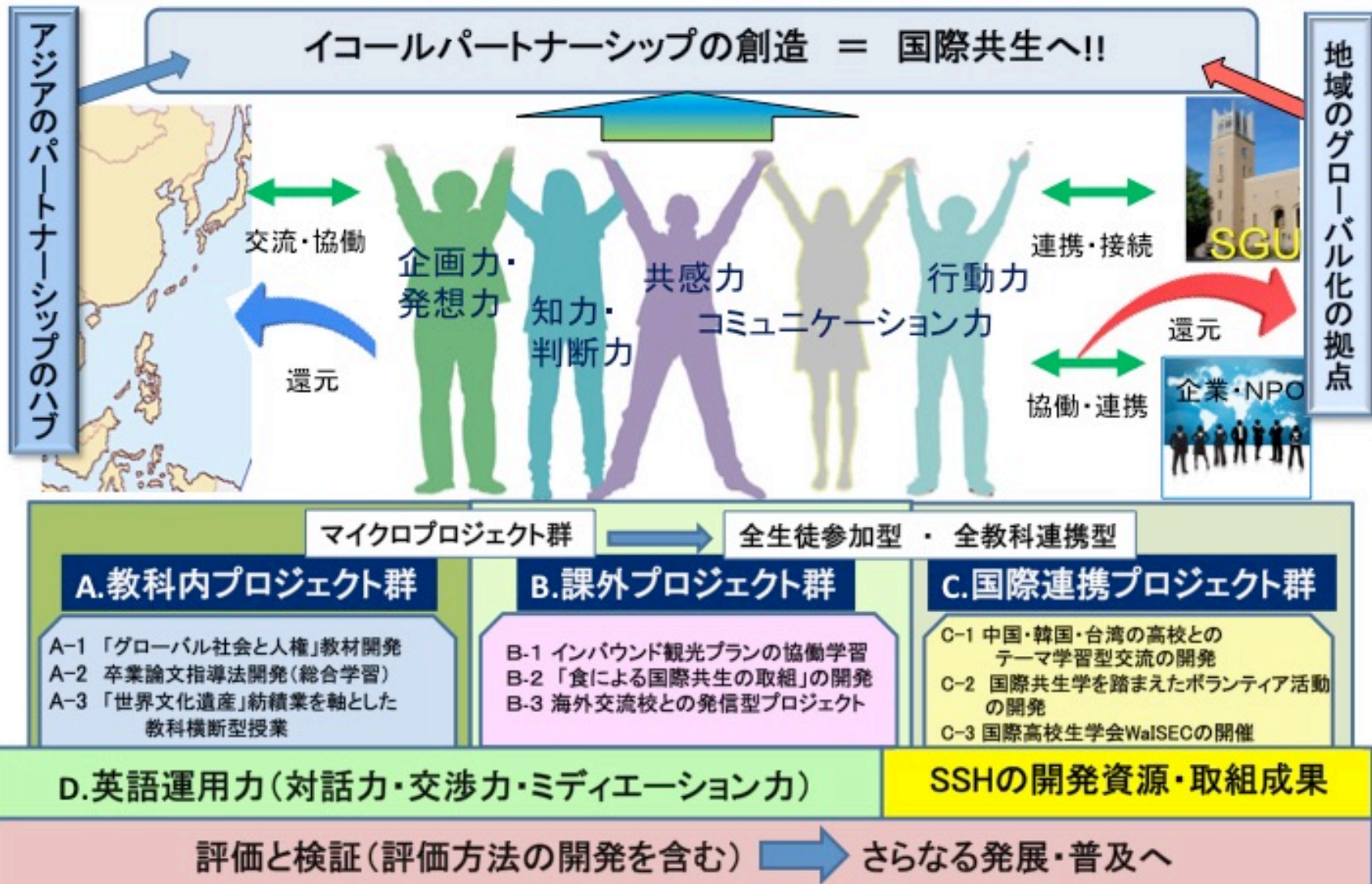
早稲田大学本庄高等学院 SGH事業

国際共生のための
パートナーシップ構築力育成プログラム

～チームで取り組む「マイクロプロジェクト」を通じた
交流・協働・連携・還元～

国際共生のためのパートナーシップ構築力育成プログラム

～チームで取り組む「マイクロプロジェクト」を通じた交流・協働・連携・還元～



イコールパートナーシップの創造 = 国際共生へ!!

アジアのパートナーシップのハブ

地域のグローバル化の拠点

交流・協働

連携・接続

還元

還元

協働・連携

企画力・
発想力

知力・
判断力

共感力
コミュニケーション力

行動力

マイクロプロジェクト群

全生徒参加型・全教科連携型

A. 教科内プロジェクト群

- A-1 「グローバル社会と人権」教材開発
- A-2 卒業論文指導法開発(総合学習)
- A-3 「世界文化遺産」紡績業を軸とした教科横断型授業

B. 課外プロジェクト群

- B-1 インバウンド観光プランの協働学習
- B-2 「食による国際共生の取組」の開発
- B-3 海外交流校との発信型プロジェクト

C. 国際連携プロジェクト群

- C-1 中国・韓国・台湾の高校とのテーマ学習型交流の開発
- C-2 国際共生学を踏まえたボランティア活動の開発
- C-3 国際高校生学会WaISECの開催

D. 英語運用力(対話力・交渉力・ミディエーション力)

SSHの開発資源・取組成果

評価と検証(評価方法の開発を含む)

さらなる発展・普及へ

1 構想概要(1)



◆「パートナーシップ構築力」

各コミュニティ固有の課題解決や発展のために複合的な視点から企画を創造し、国内外の仲間と望ましい人間関係を構築しながら協働で課題に取り組む力

◆「グローバルリーダー」

具体的なミッションのために少人数で取り組む際に、ある場合はリードし、ある場合はフォローしてチームの力を高める人材

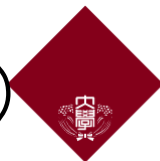
1 構想概要(2) 研究開発の仮説



以下の3つは「パートナーシップ構築力」育成に効果がある。

- ◆ 少人数のチームで取り組む「マイクロプロジェクト」の発想（全員が「当事者」に）
- ◆ 外部組織と連携し「マイクロプロジェクト」を系統立てて組み込んだ授業および課外活動
- ◆ 全教科が関わって実施する教育プログラム

2 研究開発・実践(①5年間の取り組み)



	2015 (1年目)	2016 (2年目)	2017 (3年目)	2018 (4年目)	2019 (5年目)	2020以降 (展望)
教科内・ 教科連携 の取組み		国語＋地歴	国語＋地歴	国語＋地歴	国語＋地歴	
			家庭＋英語	家庭＋英語	家庭＋英語	
		公民＋英語	公民＋英語	公民＋英語	公民＋英語	
					情報＋英語	
			英語習熟度別グループ			
課題研究 (探求・論文指導)	評価法検討		3年生一斉指導 (早大と連携)		2年生一斉指導 の検討	
			ポスターセッション導入	ポスター発表 (授業内実践)	ポスターセッション活用	
海外学校・組織との連携	来校	派遣	派遣	派遣 来校	派遣 来校	
		オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	
国内学校・組織との連携		国際高校生学会プレ大会(冬休み) 海外4校 国内3校	附属校サミット (教員研修、生徒も発表)	国際高校生学会(2学期中) 海外6校 国内2校 3組織と連携	国際学習交流ウィーク(2学期中) 海外2校 国内1校	

2 研究開発・実践 (②教育課程)



教科	第1学年	第2学年	第3学年
国語	国語総合	現代文B 古典B (文)古典講読	現代文B (文)古典B
地理歴史	世界史B	世界史B 日本史A	地理A (文)「近現代の世界」
公民	倫理	政治・経済	(文)政治・経済
数学	数学Ⅰ 数学A	数学Ⅱ 数学B	(理)数学Ⅲ (文)数学Ⅲ
理科	物理基礎 生物基礎	化学・化学基礎 (理)物理・科学課題研究	地学基礎 (理)物理 (理)化学
保健体育	体育 保健	体育 保健	体育
芸術	音楽 / 美術		
外国語	C英語Ⅰ 英語表現Ⅰ	C英語Ⅱ 英語表現Ⅱ	C英語Ⅲ 英語表現Ⅱ (文)Academic English
家庭 情報 総合学習	家庭基礎 情報の科学	情報の科学	総合的な学習の時間(2)
		卒論テーマ登録	卒業論文・修学旅行(海外)

2 研究開発・実践（③探求と論文）



教科	第1学年	第2学年	第3学年
国語 地歴 公民 理科 外国語 情報 総合学 習	<p>レポートの基本 データの読み方 問いの立て方 参考資料活用 発表の基礎</p> <p>国語総合</p> <p>生物基礎 C英語Ⅰ 英語表現Ⅰ 情報の科学</p>	<p>論文のテーマ探究 問いの立て方 データの使い方 文献・資料の探し方 発表の基礎（スライド、 ポスター、配布資料）</p> <p>政治・経済</p> <p>(理)物理・科学課題研究 C英語Ⅱ 英語表現Ⅱ 情報の科学</p> <p>卒論テーマ登録(10月)</p>	<p>学術論文の形式と執筆 仮説と検証の方法 剽窃防止と引用の知識 発表スキルの向上 質問と討論</p> <p>(文)「近現代の世界」 (文)政治・経済 (文)人文・社会科学特論</p> <p>C英語Ⅲ 英語表現Ⅱ</p> <p>総合学習:早大教員による 学年一斉指導 卒論執筆(12月提出)</p>

2 研究開発・実践（④成果の検証）



◆ 授業実践およびイベント後のアンケート等

- ・担当者が1～2人程度：SGH成果報告書に記載
- ・学年/全校生が参加したもの：「教諭会」で報告

◆ 成果物（論文、発表ポスター、生徒の議事録等）

◆ 「SGH定点調査」

- ・全校生対象に指定2年目から実施
- ・50問選択肢式アンケート、結果を経年比較
- ・「グローバルリーダー」資質の変化の自覚
- ・「国際的指向性」(Yashima, T. 2009) の傾向
- ・海外フィールドワーク参加歴、留学への指向

2 研究開発・実践（⑤成果の検証 例1）



◆WaISEC (Waseda International Symposium on Education and Culture、2018年11月15～18日)

- ゲスト：海外6校（24名）、国内2校（12名）
- 全校生徒が参加
- 文化交流、研究発表、社会見学と意見交換
- 生徒実行委員約150名（1～3年生）
- 8つの運営チーム

（執行部、司会、バディ、フィールドワーク、会場設営、デザイン、パンフレット、メディア）

2 研究開発・実践 (⑤成果の検証 例1)



◆WaISEC 実行委員の「パートナーシップ構築力」

- ・終了直後に「執行部」がアンケート実施
- ・2月に教員が「振り返り」セッション実施



- 「外部」関係者との関わりが多いほど
変化の自覚が大きい
- 教員が寄り添うことは活動が順調でも必要

2 研究開発・実践（⑤成果の検証 例2）



◆ 「SGH定点調査（国際的志向性）」

- ・八島1（2009）の質問紙「28項目（拡大版）」活用
出典 Yashima, T. (2009) “International posture and the ideal L2 self in the Japanese EFL context”
- ・「身近な異文化へのリアクション」
- ・「国際的な職業への関心」
- ・「違いに対する反応」
- ・「海外の情勢への関心」
- ・「世界の人に対して語る意欲」

2 研究開発・実践 (⑤成果の検証 例2)



◆ 「SGH定点調査 (国際的志向性)」

・全般的な傾向

1年生： 多様な人々との交流に関心 } 高目
国際的な職業への関心

2年生： 世界の人々に対して語る意欲 } 低下
海外の情勢への関心

3年生： 多様な人々との交流に関心 } 高目
国際的な職業への関心(留学志向)

・2016年度(SGH指定2年目)入学者の傾向

2年次： 海外の情勢への関心 高さを維持

*** 1年次 各研究課題参加 2年次 全員WaISEC参加**

2 研究開発・実践（⑤成果の検証 例2）



◆ 「SGH定点調査」 自覚の変化 （グローバルリーダーの「5つの資質」）

・全般的な傾向

1年生：「かなりの変化を自覚」

2年生：「変化の自覚なし」

3年生：「かなりの変化を自覚」

・「変化の自覚を促したと思える場は？」

1年生と3年生： 授業内が課外活動と同程度に多い

2 研究開発・実践（⑥国内外研修）



◆ SGH国内外研修の基本の流れ (2016～2018年度)

1学期			夏休み	2学期			冬休み	3学期
4月 前年度 成果報告	5～6月 参加者 校内公募	6～7月 事前学習、 課外講義	国内外 研修実 施 (ひとり 一カ所)	9月 研修成 果報告 会 (学内)	9～10月 学園祭で のポス ター展示 用意 授業へ の還元	11～12月 SGH成果 報告会、 WaISEC等 で口頭発 表、ポス ター発表		論文 提出

2 研究開発・実践（⑥国内外研修内容）



◆A 教科内プロジェクト群

▪ A-1 「グローバル社会と人権」教材開発（公民）

– 沖縄フィールドワーク（2～6名）

基地周辺、教育機関訪問、地元の方取材

– 韓国フィールドワーク（6名）

オンライン協働授業のパートナー校訪問

▪ A-3 「世界文化遺産」紡績業を軸とした教科横断型授業（国語＋地歴）

– 上海・蘇州フィールドワーク（5～7名）

「在華紡」史跡、蘇州中学との協働学習

2 研究開発・実践（⑥国内外研修内容）



◆B 課外プロジェクト群

- **B-1 インバウンド観光プランの協働学習（英語）**
 - **シンガポールフィールドワーク（5名）**
交流校との協働学習、観光地・関連施設で取材
2学期に学校外で研究発表
- **B-3 海外交流校との相互訪問による
発信型プロジェクト（英語）**
 - **インドネシアフィールドワーク（5～8名）**
交流校と相互訪問、英語の冊子を編集

2 研究開発・実践（⑥国内外研修内容）



◆C 国際連携プロジェクト群

- C-1 中国・韓国・台湾の交流校との
テーマ学習型交流の開発（地歴）
 - 韓国フィールドワーク（約20名）
- C-2 国際共生学を踏まえた
ボランティア活動の開発（学際）
 - フィリピン植林、屋久島清掃活動（約8名）
 - ネパール人権擁護NPOスタディーツアー（約8名）
- C-3 国際高校生学会WaISECの開催
 - Hana Academy Seoul主催国際学会参加（約8名）

2 研究開発・実践（⑦特色ある取り組み）



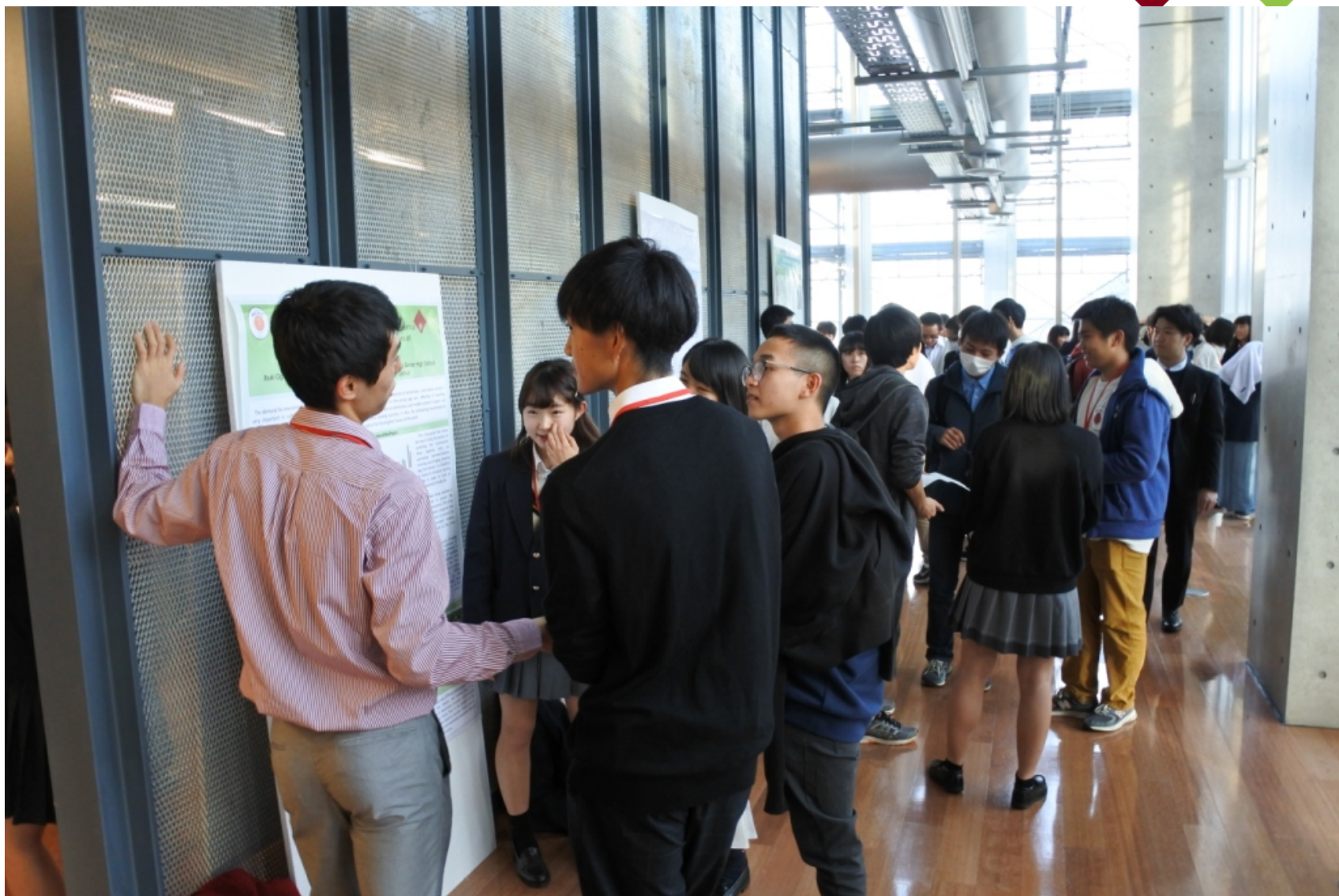
◆WaISEC (Waseda International Symposium on Education and Culture) 開催

日付	ゲスト・発表者・運営チーム	在校生
11/14	海外校来日/直前準備	休校日
11/15	ゲスト校到着 授業体験 開会式、文化交流、懇親会	1年生・3年生 授業時間内の歓迎行事
11/16	基調講演、生徒研究発表、 ポスターセッション	2年生および希望生徒 研究発表聴講
11/17	3か所へのフィールドワーク グループ別協働学習	通常授業
11/18	グループ別協働学習成果報告 閉会式、帰国 * 論文執筆	休校日

WaISEC 口頭発表と質疑応答



WaISEC ポスターセッション



WaISEC 宿舎での交歓会



WaISEC 事前学習



学術ポスター制作
ワークショップ



「多文化共生」についての
講演会とディスカッション

3 管理機関の支援



- ◆外部指導委員会に担当理事・役職者参加、事業展開に関して協議と助言
- ◆WaISEC開催のための大学施設活用支援（研究発表会場、宿泊施設）
- ◆高校課程での長期留学制度の整備
- ◆SGH国内外フィールドワーク、および修学旅行引率者支援
- ◆英語習熟度別グループ授業実施の支援

4 成果と課題 (①成果)



◆授業実践

複数教科の連携授業増加、学内公開授業増加
海外交流校との通年のオンライン協働授業実践

◆外国語教育、海外FW実施と生徒の変化

高校生国際フォーラム・コンテストの参加者増加
短期語学研修希望者増加、留学志向上昇

◆国際学会開催経験

学習交流を核とした学校間交流の型共有
「発表会」から「討論会」への志向の変化

4 成果と課題 (②課題)



◆授業実践

基礎知識の学習機会の確保要

アクティブラーニング型授業の重複による疲弊

◆外国語教育、海外FW実施と生徒の変化

経済格差と海外経験の差が直結

留学生・外国人有識者の積極的な招聘要

複数年度持続可能な海外FWのあり方検討

◆SGH研究課題の経験

生徒の活動場所・機会の拡大

教育実践の成果の学内活動要

教育プログラムの質的・量的評価法 研修要

大学進学後の留学やボランティア把握方法

4 成果と課題(③成果普及にむけて)



HONJO

◆他教育機関・他組織との連携継続

持続可能な規模・方法での教育連携継続

◆成果物および資料の教材化

論文集の作成・配布

研究課題取り組み課程でのワークシート等共有

◆授業公開および学術交流企画の公開推進

地域の教育機関・団体関係者の招待

大学教員・学生の参観

5 事業の継続



◆「学習交流ウィーク」の実施

10月28日～11月2日 海外校2校招聘

「パートナーシップ構築」テーマでの学習会

海外校メンバーの授業体験、日本文化体験

「SGH成果報告会」での成果発表と討論

◆海外FWを核にした発展的プロジェクト開発

◆特定テーマに沿った連続講演会の企画

◆ボランティアに意欲のある生徒への支援検討